

『学科専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉 〈教育課程の編成・実施方針〉 〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

1. 史学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

人は時間の中を歩み、社会は時間の流れの中で絶えず変化しています。われわれは今どこにいるのだろうか、社会はどこへ向かっていくのだろうか、よい未来のためにわれわれは何をどのようにすればよいのか。現代に生きる私たちがそのような問題意識を抱いたときに、解決の手がかりを教えてくれるのが歴史です。

史学科では、次のような卒業生になって欲しいという願いを込めて、3年間の専門課程教育を施しています。

1. バランスのとれた歴史観や視野の広い国際感覚が磨かれた卒業生を育てることを目標としています。卒業生には、現実の社会で生起するさまざまな事象を何よりも歴史的な視点から分析・評価し、それらに適切に対処できる知識や技能を身につけた教養人として社会に巣立って欲しいと思います。
2. 卒業後も、教育機関、官公庁、企業などの職場や日々の社会生活においてさまざまな問題に直面することになるかもしれません。そうしたときに、大学で歴史を深く学ぶことで得られた緻密な分析能力（思考力・判断力・表現力）を発揮できる存在であって欲しいと思います。
3. 社会生活において演習科目などを通じて身につけた、主体性をもちつつ周囲と協働するという姿勢を十分に活用することができる、社会から求められる人材になって欲しいと思います。

2. 史学科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

上記のディプロマポリシーに基づき、史学科では、次のようなカリキュラムを採用しています。

1. バランスのとれた歴史観や視野の広い国際感覚に裏打ちされた知識と技能を身につけるために、その基盤となる能力を向上させるためのカリキュラムを用意しています。例えば、史料読解力や外国語文献読解力を身につけるための専門科目、さまざまな時代や地域についての知識を幅広く身につけることとなる2年生向けの演習科目などがあります。
2. 3年次以降は、日本の各時代（古代／中世／近世／近代）や、世界の各地域（東・東南アジア／南・西アジア／フランス／イギリス／中欧・東欧／アメリカ）に分かれて、専門的な学びを進め、卒業論文を作成することとなります。卒業論文を作成するためには思考力・判断力・表現力が不可欠となりますが、様々な授業を通じて各時代や各地域の研究を進めるなかで、あるいは、卒業論文担当教員による指導を受けるなかで、それらの能力が鍛錬されていきます。
3. 卒業論文作成を念頭に3年次と4年次では演習科目を履修することとなります。これら演習科目では自己発信的な発表や積極的な発言が求められますので、主体性を持ちつつ周囲と協働して学ぶ態度を身につけることができます。

3. 史学科の進学生・編入学生の受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

史学科では、日本史・世界史にかかわらず、歴史に対する強い好奇心をもち、過去や異文化への誤解や思い込みに気づく柔軟な姿勢を備えた人に進学してもらいたいと考えています。そのため、高等学校では、次のような学びを深めて欲しいと考えています。

1. 地理歴史科の日本史や世界史などの科目を通じて、歴史や地域に関する正確な知識を身につけておく必要があります。また、同時に日本史コースでは古文や漢文、世界史コースでは英語などの外国語の技能が求められます。
2. 卒業論文を作成するためには思考力・判断力・表現力が求められますので、国語や現代文に親しんでいることはもちろんとして、数学や理科などの授業で必要とされる論理的思考に慣れていることも望まれます。
3. 演習科目では主体性を持ちつつ周囲と協働して学ぶ態度が必要とされますので、課外活動などによって、多種多様な人々と接する経験を多く積み重ねていることが大切となります。

編入学生についても、上記のアドミッションポリシーを満たした学生生活を送っていることが求められます。

2017年3月31日更新